

今年のGWは、後半の悪天が結果的に事故を少なくした。長野県では、前半の鹿島槍での滑落と白馬岳周辺での行方不明だけのようだ。

警察庁の発表では、過去5年で最少、新潟・群馬・長野の順に件数が多い。あいかわらず山菜採りの遭難も多い（GW後も毎日のように報道されている）。

私は、GW前半は泉州労山の仲間と岳沢に入って、奥明神沢から前穂に登った。驚いたのは、小屋の前は段々畑のように除雪機で幕営スペースをきれいに馴らしていたことだ。スコップは要らないし、足で踏み固める必要もない。竹棒に小旗でナンバーまで書いて、張る前に受付でナンバーをもらえとの注意書きまである。最近の春の岳沢はそこまでやるのかと驚きである。いつもの右手の高台には、1張りもない。オーバー70の私には前穂までの登りはきつかったが、ゆっくり登ろうという仲間のおかげで登頂できた。春の奥明神沢からの前穂4度目である。たぶん今回で最後だ。その日のうちに白馬まで帰った。

後半は、大町労山で予定していた火打を中止にしたので、これも泉州の仲間と日帰りで焼岳に登った。焼岳も何回か登っているがGWは初めてだ。（数年前の3月に山スキーに挑戦しようとしたが、国道のすぐ横からゲートが閉まっており断念したことがある。中ノ湯は通年営業しているから通常の登山口から入れると期待していたが甘かった）直前の降雪で途中からきれいな新雪になった。旧登山口との合流点あたりから稜線まではカール状でスキーでは快適な斜面に思われた。この時期は、残念ながら上高地まで抜けられないので登山口からの往復にならざるを得ない。個人的には、秋の焼岳が好きだ。

連休後の11日に新潟県糸魚川市の頸城駒ヶ岳に単独で登った。数年前は南から上がったので、今回は北から入った。ほぼ1500mの山（登山口からの標高差約800m）ではあるが、先日来の新雪でルートが不明瞭（もちろんトレースはない）で、全層雪崩の跡をトラバース、しかも急登の連続。GPSを頼りに一部雪に見え隠れする十数本のトラロープが次々と。そして縄梯子。3度もすぐ横の沢で雪崩が発生した。

たかが1500mと侮るなかれ。下山は何回か迷いそうになる。スマホのYAMAP軌跡をたどりつつ慎重に降りる。誰にも会わない。同じ新潟県の山で、いまも10日以上発見されていない親子の道迷いが理解できる。上信越の山は高度はあまりないが、なかなか個性があって面白い。しかし、決して易しいわけではない。今回、頂上近くのブナ林の新緑が唯一の癒しだった。

今年は、暖かい日が多いので、熊の出没も目立っているようだ。信毎には社会面に「熊情報」の欄がある。戸隠神社参道を我がもの顔に歩く熊の写真が大きく載っていた。

5/17 記



前穂頂上から